



白保公民館指定文化財ガイドブック発刊

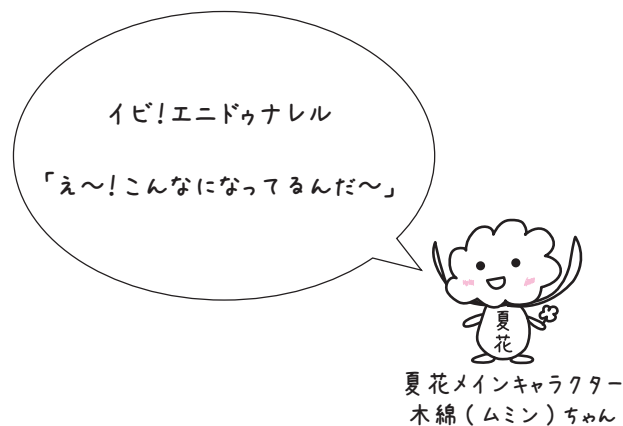
白保村の財産である歴史ある場所や自然、景観を多く方に知ってもらい、後世に守り残していこうと白保村文化財を説明するガイドブックを作成しています。このマップは、平成20年度白保公民館が制定したお嶽や町並みなど、57ヶ所の白保村指定文化財を写真と共に解説を載せ、使いやすいように冊子にまとめてあります。白保村文化財指定とは、白保村ゆらていく憲章推進委員会が平成19年度から20年度まで白保学講座を開講した際に、歴史を学ぶことで先人方の英知と苦勞を知り、それを次世代に語り継いでいこう、と指定に至りました。

今回、白保村文化財ガイドブックを発刊することにより、白保に暮らしながら、白保の先人たちが心の支えとして生活を営んだ場所を見聞し、これまで当たり前過ぎて見過ごしていた白保の新たな魅力に改めて気づくことで、誇りある白保村づくりに繋げていけたらと思っています。きっと、年配の方は懐かしく思い、若い方はなるほどと感心し、子供たちは凄いと感動し、普段見えている風景が一段と輝いて見えることだと思います。

このガイドブックは、現段階で知りえた内容で作成していますが、今後、多くの方から、文化財をはじめとする白保村の情報をいただけたらと願っていますので、ぜひご協力ください。



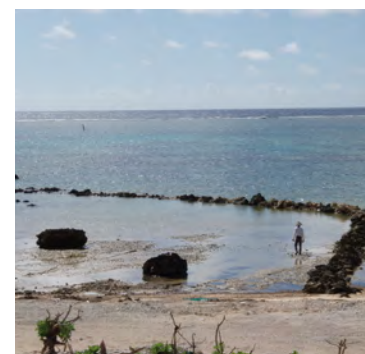
完成間近のガイドブック



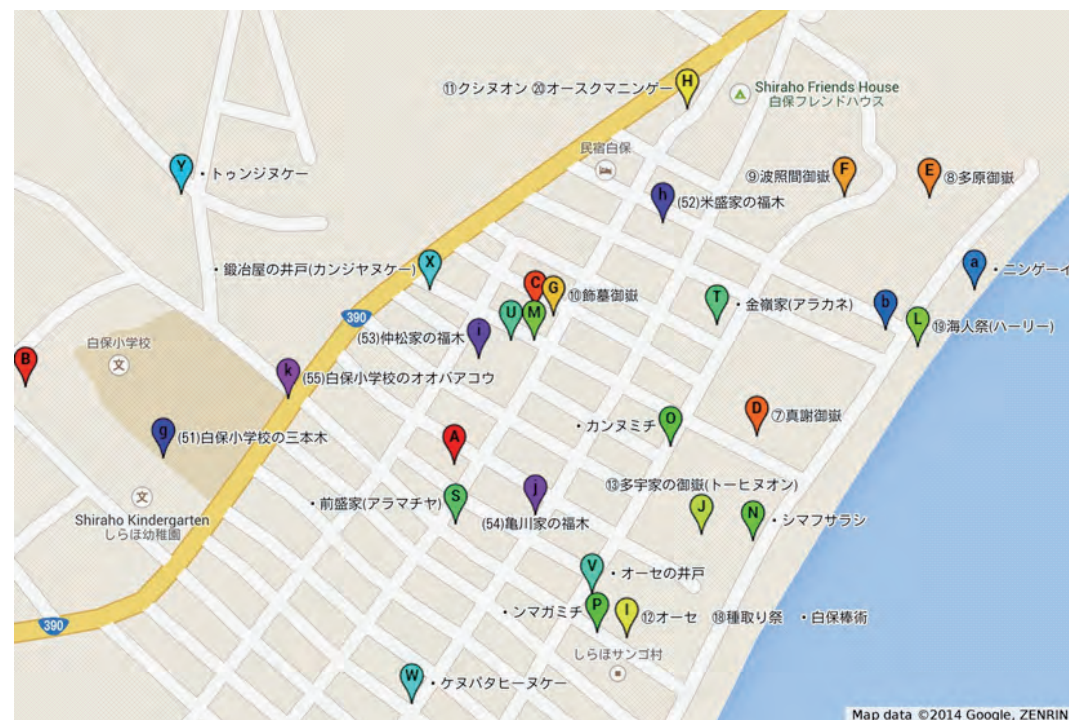
ビッチュムリ



フクギ並木



海 垣



夏花では、島外から白保村を訪れた方々の集落散策の案内をしていますが、白保の皆さんには失礼のないように細心の注意を払っております。ご了承、ご理解下さい。

夏花では、皆様からの寄付金や賛助会員、活動をサポートしてくれるボランティアの方を募集しています。

お問い合わせ・ご連絡は事務局(080-8553-8848 池間)まで。

白保まるごと体験ツアーの実施

NPO法人夏花(なつぱな)では、白保集落の長い歴史の中で育まれた自然や文化を受け継ぐために、サンゴ礁の資源を持続的に活用したさまざまなツアーの企画、現地受け入れを行なっています。2014年3月からは、WWFの協力の下、サンゴ礁と共に暮らす島人との交流やサンゴ礁の観察・保全活動に参加するスタディツアーを実施しています。ツアーでは白保の生活や暮らしを体験する、農家体験やホームステイを行なっています。参加者の評価も良いことから、今後も継続して取り組むこととしています。

夏花では、子ども向けの自然体験活動の受け入れも実施しています。2014年7月には「ネイチャーキッズ～石垣島探検隊～」の受け入れを行ないました。これはWWFジャパンと株式会社カスミが毎年行なっているイベントで、今回で13回目となります。これまでは北海道で開催していましたが、今年初めて石垣島での開催となりました。夏花では企画協力、現地受け入れを担当しました。都会の子どもたちがサンゴ礁の恵みに触れ、島の暮らしと自然とのつながりを感じることでできる体験活動を企画しました。同ツアーでは、白保の子どもたちとの交流、サンゴ礁でのシュノーケル、ホームステイを行ないました。都会から来た子どもたちには自分の住んでいる地域との違いを学び、体験する良い機会となったようです。また、白保の子どもたちにとっても、改めて白保の自然環境を見直す機会となりました。

夏花では、さまざまなツアーの受け入れを通じて、農家のみなさんをはじめとする白保地域の方々と連携を深めることで、赤土流出防止の活動が広がることを期待しています。これからも白保サンゴ礁の保全と活性化に向けた白保まるごと体験ツアーの企画・受け入れを行なっていく予定です。



白保の暮らし体験で石垣牛の世話を体験。干し草をあげながら牛の大きさに感動



青空の下、汗をかきながら月桃やイトバショウの植樹をしました



シュノーケルではたくさんの海の生き物に出会えます



白保海域での赤土調査実施

サンゴ村で2000年8月から継続して行なっていた白保サンゴ礁での赤土調査は、昨年1月からNPO夏花のコーディネートで実施しています。調査では、海底より一定量の砂を採取し、その中に含まれる微粒子による海水の濁り具合を測定します。海底に沈殿する赤土の量に応じて、ランクを9段階にわけて汚染度を判断します。ランク5b以上でサンゴに悪影響が現れはじめ、ランク6以上で明らかに人為的な影響があるとされています。今回は、2014年秋季と2015年冬季の調査結果を報告します。

2014年秋季調査では、4か所でランク6を記録しました。最大SPSS値は55.7kg/m³で、秋の調査としては過去3番目に低い(濁りが少ない)数値でした。調査前日に42.5mmのまとまった雨が降っており、轟川河口付近の海水の透明度は悪く感じられました。

台風接近に伴う外洋への排出等、好影響も見受けられましたが、陸域での対策の必要性を再認識しました。

2015年冬季調査ではランク6を記録したのはG-1、G-2、F-1、F-2、E-1、C-1、Y-1の7か所で、最大のSPSS値はE-1の114.5kg/m³でした。期間中の降水量は132mm(盛山観測所)。前回の調査(秋季赤土調査)でランク6を記録したのは4か所でしたが、今回7か所に増えていました。



2014年12月秋季調査結果



2015年2月冬季調査結果



素潜りで海底の砂を採取



採取した砂を分析

NPO夏花では、今後も行政や地域の土地所有(耕作)者の理解と協力を得ながら、グリーンベルトの植栽活動を含む赤土流出を防止する最善策を提案、実施していきたいと思っています。赤土調査に協力していただける調査員を募集しています。

興味がある方は事務局(080-8553-8848 池間)までご連絡下さい。